令和７年２月 25 日

「令和4年国民健康・栄養調査」について、「正誤表」のとおり訂正しました（令和7年2月 25 日）。

（正）

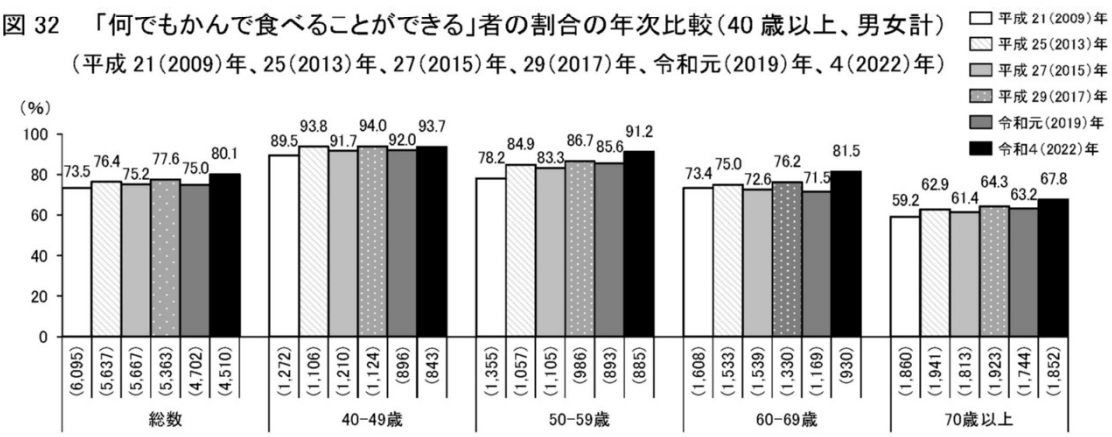
第５章　歯・口腔の健康に関する状況

１．歯・口腔の健康に関する状況

何でもかんで食べることができると回答した者の割合は、80.1%である。平成 21 年、25 年、27 年、29 年、令和元年、4年の推移をみると、有意に増加している。

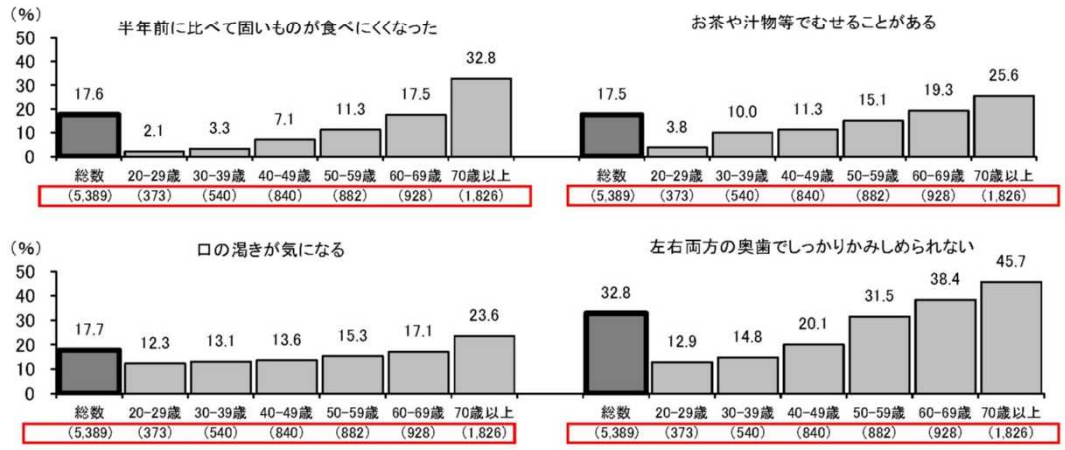
食事中の様子について、「半年前に比べて固いものが食べにくくなった」、「お茶や汁物等でむせることがある」、「口の渇きが気になる」、「左右両方の奥歯でしっかりかみしめられない」と回答した者の割合は、70 歳以上で最も高く、それぞれ 32.8%、25.6%、23.6%、45.7%である。

図 32　「何でもかんで食べることができる」者の割合の年次比較（40 歳以上、男女計）
（平成 21（2009）年、25（2013）年、27（2015）年、29（2017）年、令和元（2019）年、4（2022）年）



（参考）「健康日本 21(第二次)」の目標
口腔機能の維持・向上(60 歳代における咀嚼良好者の割合の増加)
目標値：80%

図 33　食事中の様子（20 歳以上、男女計・年齢階級別）



※図中の数値は、「半年前に比べて固いものが食べにくくなった」、「お茶や汁物等でむせることがある」、「口の渇きが気になる」に「はい」と回答した者、「左右両方の奥歯でしっかりかみしめられる」に「いいえ」と回答した者の割合。

（誤）

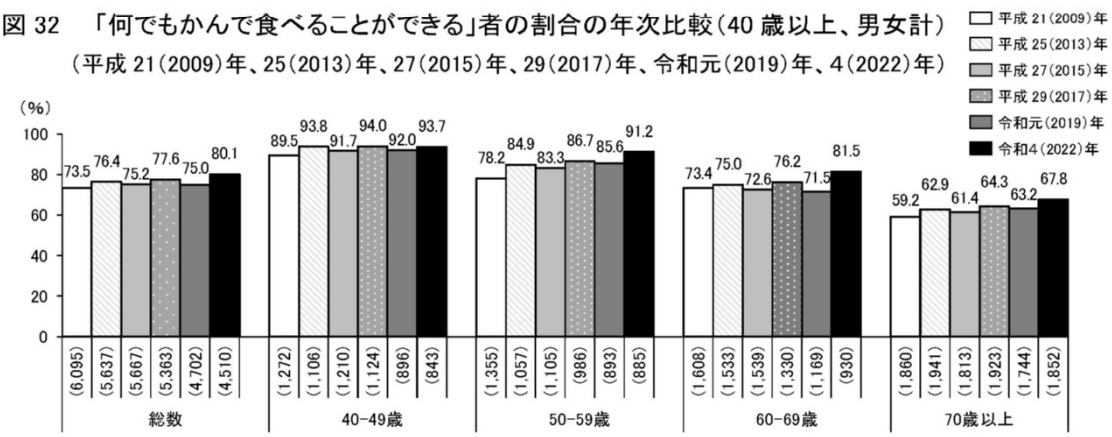
第５章　歯・口腔の健康に関する状況

１．歯・口腔の健康に関する状況

何でもかんで食べることができると回答した者の割合は、80.1%である。平成 21 年、25 年、27 年、29 年、令和元年、4年の推移をみると、有意に増加している。

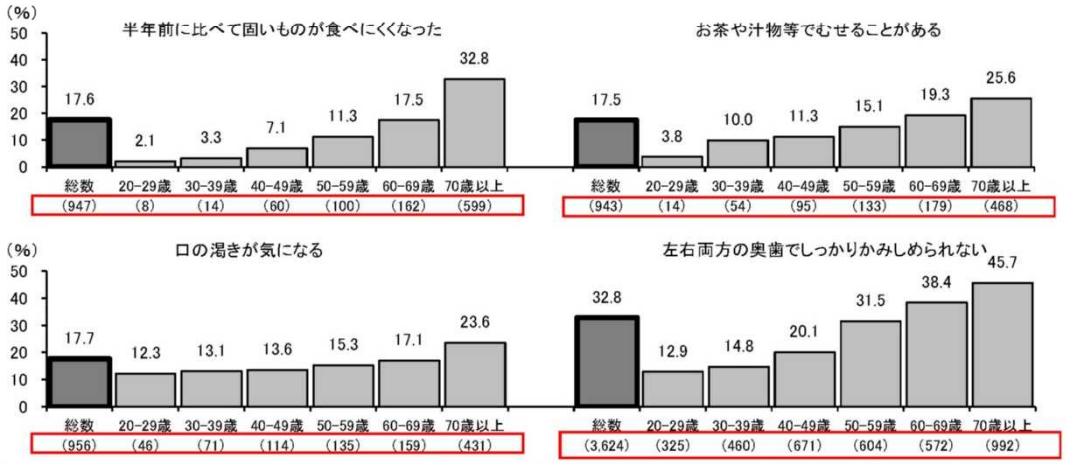
食事中の様子について、「半年前に比べて固いものが食べにくくなった」、「お茶や汁物等でむせることがある」、「口の渇きが気になる」、「左右両方の奥歯でしっかりかみしめられない」と回答した者の割合は、70 歳以上で最も高く、それぞれ 32.8%、25.6%、23.6%、45.7%である。

図 32　「何でもかんで食べることができる」者の割合の年次比較（40 歳以上、男女計）
（平成 21（2009）年、25（2013）年、27（2015）年、29（2017）年、令和元（2019）年、4（2022）年）



（参考）「健康日本 21(第二次)」の目標
口腔機能の維持・向上(60 歳代における咀嚼良好者の割合の増加)
目標値：80%

図 33　食事中の様子（20 歳以上、男女計・年齢階級別）



※図中の数値は、「半年前に比べて固いものが食べにくくなった」、「お茶や汁物等でむせることがある」、「口の渇きが気になる」に「はい」と回答した者、「左右両方の奥歯でしっかりかみしめられる」に「いいえ」と回答した者の割合。